

# 陽の里

発行 平成28年7月1日

社会福祉法人 新生会  
総合ケアセンター サンビレッジ  
〒503-2417 岐阜県揖斐郡池田町本郷1501番地  
TEL (0585) 45-5545(代)  
URL <http://www.sun-village.jp/>

No.128

## テーマ 現場で人を育てる



▶ふれあいタイムで学生は利用者から沢山のことを学びます

## ふれあいタイム

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

総学科長 金井浩樹

サンビレッジ国際医療福祉専門学校は20年前の平成8年に設立され、生活支援を担う介護福祉士、作業療法士、言語聴覚士を養成しています。

本校では新生グループ内の介護現場と連携して教育を行えるという独自性を活かし、現場のスタッフを講師に招くことのみならず、学生が継続して現場を訪れることによって、観察力を始めとする医療福祉職として必要な力を身に付けられるようにしています。

その代表的なものが、3学科で実施されている「ふれあいタイム」です。学科により頻度や内容に違いはありますが、学生は特別養護老人ホーム等の介護施設に通い、直接利用者やスタッフと関わります。

「ふれあいタイム」は学校設立当初から実施されていますが、学生を受け入れる側の施設内には「職員の負担が増えるのでは?」「どうやって育てればいいのか?」といった戸惑いの声もあり、決して簡単に実現したわけではありませんでした。最終的に「質の高い介護を共に目指す仲間を育てよう」と現場の思いが一つになり、始められることになりました。

授業で学んだことを現場で一つひとつ確認し、逆に、現場で疑問に思ったことを学校の授業で質問し納得していきます。このような学校の授業と現場との絶え間ない往復作業の繰り返しの中で、学生はそれぞれの分野の専門性の理解を深めていきます。

生活体験が乏しいと言われる今の若者にとって、利用者の生活を感じることでできる現場は、何物にも代え難い生きた学習の場となっています。これからも現場を「第二の校舎」として、質の高い医療福祉職を養成していきたいと思えます。

# エルダー制度を活用した

## 人財育成の実際



増田



中田

サンビレッジでは、人財育成の手段としてエルダー制度を導入しています。エルダーとは「先輩」の意味で、OJT(実践)中の育成の呼び名です。先輩職員は新しく入職したスタッフに対し実務指導を始め、職場生活上の相談役を1年通して担います。今回は40期生(H27年入社)の増田さんとエルダーを担った中田さんにインタビューを行いました。

中田さんはエルダーを担うに当たり感じた不安はありましたか？

中田：はい。エルダーを担うことが決まったときは、期待より不安が大きかったです。

何故不安に感じたのでしょうか？

中田：増田さんは学卒で介護現場での経験がなかったので、私が伝えたことが増田さんのスキルの手伝いになるのではないかと不安、自分のスキル・経験で大丈夫か、信頼関係は創れるだろうか、等の不安を感じていました。増田さんはエルダー制についてどう感じましたか？

増田：先輩職員について指導頂ける安心感、また年間を通して相談に乗ってくれる先輩がいてくれ

ることに自分が大切にして貰えている実感がありました。

増田さんは入社時にどのような不安を感じていたのですか？

増田：技術・知識的な部分に加えて、新社会人として心構えや考え方にも不安がありました。このエルダー制度は同じ学校を卒業した同級生からとても羨ましがられました。

エルダー制を通じお互いの信頼関係が出来たと感じた場面はありますか？

中田：自分の思いを言葉にしてコミュニケーションを図ることで信頼関係が出来てきたと実感できるようになりました。

増田：最初は知識・技術は指導

してもらえて信頼できる先輩ではあるけれど、中田さんは自分をどう思っているのだろうか？と考えることもありました。

中田：同じフロアーの仲間も配慮してくれて一人でコミュニケーションをとれる機会を意図的に増やしていただきました。

増田：はい。会話が増え中田さんの思いを知りました。其れからは厳しい指導も何を言われたかを注意深く考えることが出来るようになりました。

中田：増田さんは次年度サンビレッジ岐阜への異動になります。真剣に向き合った後輩が移動する

ことが寂しく、同時にエールを送りたい愛おしい感情になります。そんな相手を思える感情も信頼関係だと感じています。

エルダー制をやって良かったと感じる点を教えてください。

中田：自分自身の伝え方が不足している点、もっと上手く伝えられたのではないかと等エルダーを担うことで感じることもなかった『伝え方』を考える経験が出来たことが良かった点であり、同時に今後の課題だと感じています。

これからエルダーを担う方・入社する方へのメッセージをお願いします。

中田：役割と向き合い丁寧に関わる過程で、先輩の成長が嬉しいと感じられる機会がやりがいにつながります。伝えることは難しいですが、周りの仲間と共に思いを共有できる仲間を皆で増やしていきたいでしょう。

増田：エルダーの存在は、一年通して大きな存在です。わからないことをなるべく声に上げて聞き、観察し、エルダーを信頼して、仲間を信頼出来ればと思います。キーワードは『コミュニケーション』だと思います。



▶優しい先輩素直な後輩笑顔で懇談

# 「しんせい語録」の読み解き

## 事業の継続は

### 哲学とビジネス

サンビレッジ岐阜 河合美香

私がシティタワー・アンキーノに配属されてから、早6年が経過しました。その中で、多くのことを学んできましたが、その本質は、事業の継続は哲学とビジネス。この言葉に詰まっています。介護保険に頼らないアンキーノという、新生会の新たな挑戦を継続



▲シティタワー・アンキーノのラウンジ

可能とするには、ケアの質（哲学）とサービスの価値（ビジネス）のバランスが大切になります。私自身もそうだったのですが、料金をただ聞いた方は、ここは高いなと感じるでしょう。ですが、シティタワー・アンキーノで、どのようなサービスが提供されているかを知ると、きっとその捉え方は変わります。私たちは、介護の専門性を基本に、医療職も含めたチームを作り、お一人お一人のニーズを探り、それに合わせた生活・自己実現を支援しています。その結果多くの方から、「最期までここで住み続けたい」、「何かあったときにはまた来るから」と、満足・安心の言葉をいただけるようになります。価値を見出せるサービスが提供できていると、確かな手ごたえを感じています。この手ごたえ、語録の意味を胸に、私たちの挑戦は続きます。



しんせい語録

## 誰のために、何のために？

新生メディカル ケアマネジメントセンター  
ケアマネジャー 長井 暁子

二ヶ月間の入院前、Aさんは、自宅の居間から小学生の登下校する姿を窓から見送ること、またお風呂に入ることを楽しみに生活をしておられました。しかし入院後は、気持ちが塞ぎ寝室で24時間を過ごし、自分で行っていたTVのリモコン操作や電気毛布の温度調節も難しくなり、常に妻を呼ぶようになり、Aさんからも妻からも笑顔が少なくなりました。何とか入浴ができないか、家族と一緒に台所で食事を摂れないか、外へ出て多くの人と関わり「楽しもう」という気持ちが持てないか。チームでアプローチをしている間に、妻の介護負担は膨らみ、「私のほうが先に逝ってしまうわ」との言葉がきかれるようになったのです。このままでは介護を続けることはできないと感じるほど険しい表情を感じることもありました。少しでも長く在宅で暮らし続けるためには、ご本人は勿論の事、介護者も健康でないと在宅

新生グループには日めくりカレンダー「しんせい語録」があります。語録には介護現場で感じたことや学んだことへのヒントが掲載されています。



▲笑顔が戻ったAさん

の支援は出来ないことを実感しました。シヨートステイを提案し、必要性を感じたチームのアプローチから約半年。このままではいけないと感じたAさんがご自身でシヨートを利用しようと思えるまで必要とした時間です。現在のAさんは、シヨートステイ先で仲間と話す事や自宅とは違う大きな浴槽につかれる楽しみと周りの人たちに対する感謝を教えてくださいます。妻も健康を取り戻し在宅での生活が続いています。Aさんの笑顔は妻の笑顔と共にある事を実感し、これからもAさんが過ごしたいと思う場所でも暮らせることに関わらせていただきたいと思っています。

vol.13

## 「サンビレッジの仲間たち」

## エルダーという立場となり

サンビレッジ新生苑 寺井佐環

私は介護の仕事を始めて約5年が経ちました。最初の二年は病院にて勤務しており、治療の場である事からその人の生活を見るのではなく、看護師の指示のもとケアにあたっていました。

その後サンビレッジに入職し、一番始めに驚いた事は一人ひとりの方に合わせたケアを行っている事です。例えばトイレの場面で排尿を促す為に、トイレに誘導する時間や座っている時の姿勢等を工夫して行い、気持ちよく排泄出来るようにしていた事です。その人の生活歴や身体状況、一人ひとり違つという事を認識し、観察する事が大切である事を学ぶことが出来ました。まだまだ自分自身の観察の視点を深めていかなければいけないという目標があります。今回初めて新入職員の方にケアの方法を教えるというエルダーという立場となり、ケアを言葉にして伝えていく事の難しさも感じています。

自分自身が目指す『利用者の想いに気付くことが出来る』介護士の姿に近づける事が出来るよう、日々目標を持ちながら、新入職員の育成を行うと共に自分自身も成長していきたいと感じています。

利用者の方にとって居心地の良い場所を提供し、たくさん笑顔がみられるよう、利用者の想いに寄り添ったケアをしていきたいと思えます。



利用者の方と共に居心地の良い環境整備づくり

## トピックス

## 40周年記念のチューリップ祭

今年、新生会は40周年を迎えました。記念事業として「中庭のリニューアル」と「紫陽花ホール」が完成し、その竣工式典と記念コンサートが4月16日に執り行われました。当日は快晴となりテープカットの後、ききょう太鼓が鳴り響く中、大勢の皆さんがリニューアルされた中庭の花の咲く中を、思い思い話しながら歩かれていました。

記念コンサートでは、バイオリニストの浅野末希さんとピアニストの伊藤心子さんによる演奏がありました。午後からは池田中学校吹奏楽部との協演が、池田山の観える中庭で開かれ、自然の中で響く記念の演奏会となりました。

改めて40周年を迎え皆様へお礼申し上げます。これからもどうぞ宜しくお願い致します。



## 白鳥のパワーリハビリ



先日、白鳥のパワーリハビリ利用者から下記のお手紙をいただきました。

私は毎週金曜日PM12時50分家を出ます。送迎していただき、お友達と運動に出かけるのを大変楽しみにしております。今までリハビリセンター白鳥を全く知りませんでした。自分の良い日にバスを利用して一度は行くことを決めております。体の痛みもなくなり、いつも通っている整形の先生が「この頃、病院に来ていないが、どこか身体が悪かったの？」と聞かれた程、元気になりました。嬉しいやら、楽しいやらで、今87歳。これからもがんばります。